



子どもらしさって何？

- ・後先のことを考えず、興味本位で体が動く
- ・好奇心旺盛で何にでも興味を示す
- ・危ないことをしたがる
- ・狭い所に隠れたがる、高い所に上りたがる

- ・活動的で動き回る
- ・喜怒哀楽がはっきりしている
- ・群れて遊びたがる
- ・自分を中心に世界が回っている

etc...

ご自身の子ども時代を振り返ってみて下さい。うるさくて、汚くて、言うことを聞かない(笑)。そんな風に大人の考えた通りに、動いてくれないのが子ども本来の姿です。そういった乳幼児期の特性が無視され、「静かにして!」「動かないで!」「触らないで!」と、たえず子どもらしさを否定されたとしたら息苦しいものです。

(※子どもの願望を全て叶えてあげる事を推奨している訳ではありません。一人の人間として自身の欲求を大切にしてもらうように、他者の欲求も大切にすることを子どもも学んでいかなければなりません。)

少子化が進み、地域で大人と子どもの出会いが減る中で、子どもという存在が分からない大人が増え、早く大人になる事を強要されるなど、子どもが生きにくい社会になってきていると言われる昨今。

『子ども』が『子ども時代』を『子どもらしく』過ごすこと。いろいろなことに挑戦し、失敗を多く経験しながら、自ら試行錯誤していくことが、子どもが自立して世界に羽ばたいていくためにとても大切です。

「子ども」が「子どもらしさ」を安心して発揮できる社会を、共に築いて行きましょう。

さいたま市私立保育園協会とは？

さいたま市内の私立認可保育園で構成された「子どもの最善の利益」を目指す一般社団法人です。

ホームページ

<http://saitama-hoiku.or.jp/>



子ども虐待防止
オレンジリボン運動

さいたま市私立保育園協会はオレンジリボン運動を支援・推進しています。



特定非営利活動法人 子どもすこやかサポートネット 監修協力

叩かない子育て

推奨パンフレット



さいたま市私立保育園協会では、子どもたちの健やかな育ちを願い『叩かない子育て』を推奨しています。

一般社団法人 さいたま市私立保育園協会 発行

さいたま市私立保育園協会加盟園 職員の3つの誓い

協会加盟園では、研修会などの学びを通して、
下記のことを心がけていきます。

・叩きません ・けなしません ・はずかしめません

昔から精神的、肉体的に苦痛を与えることで教育効果が向上したり、規律や統制が強化されるという考え方のもと、子育ての中で体罰が用いられてきました。しかし現在では多くの臨床、発達の研究がその問題性を指摘し、先進国では体罰に頼らない子育てが主流となりつつあります。

そこで、さいたま市私立保育園協会では子育てに関する専門家集団として、保育園生活では勿論ですが、ご家庭での育児においても体罰を使わない「叩かない子育て」を推奨しています。取り返しのつかない悲惨な虐待の事例が多数報道される昨今、エスカレートしやすい体罰に頼らず、一切叩かない非暴力の子育てを共に目指してみませんか。

子ども時代、体罰など一度も受けた事のない人たちが、社会で成功している事例は沢山あります。大人がきちんと分別を伝えることで体罰を使わずとも、わがままでない人、人の痛みの分かる人に育てる事はできるのです。

怒りや恐怖、悲しみや憎しみといった負の感情からは、長期的に見ると決して良いものは生まれません。力で人を屈服させる行為は子どもに暴力で解決する方法を教えてしまい、将来的にいじめやDV(ドメスティック・バイオレンス)、次世代の子どもへの虐待など、時や形を変えて更に弱い者に向かって連鎖していく傾向があります。そうした負の連鎖を、私達の世代で共に断ち切っていきましょう。

またこの度、当協会では保護者の皆さんと共に「叩かない子育て」を推進していくために、改めて我々保育者も日頃の保育で心掛けなければならない「叩きません」「けなしません」「はずかしめません」の三つの誓いを掲げさせてもらいました。日々、多くの園児と豊かな時間を過ごすために築いてきた保育現場を持つ子育てのノウハウをご活用頂き、市内で更に満足度の高い、楽しい子育てが進むことを祈念しております。

さいたま市私立保育園協会

体罰の問題性

子どもの心身の発達に

マイナスの影響が指摘されています。

アメリカでの大規模な調査、Gershoff ET 2002 では、短期的には指示に従うものの、長期的に見ると、「攻撃性が強くなる」、「反社会的行動に走る」、「精神疾患を発病する」といった統計学的なマイナス面が指摘されています。また他に数多くの研究が体罰の問題性を指摘しています。

一度使いだすと止まらなくなることがあります。

エスカレートすると重大な負傷や死亡に繋がることがあります。また身体だけでなく心の傷としても取り返しのつかない傷跡が残ることがあります。

暴力など、力で解決することを伝えてしまいます。

攻撃性が強くなり、いじめやDVなどの暴力に繋がることが科学的に証明されてきています。また力関係が逆転した時、家庭内暴力として返ってくる傾向があります。

体罰だけでは何が悪いかを理解できません。

理由は関係なく、体罰が怖いからやめているので、その人がいなくなる場合など、問題行動がひどくなる傾向があります。

人間関係が悪くなる傾向があります。

恐怖や憎しみといった負の感情が芽生え、体罰を与える人に反発心や抵抗心を持ち、人間関係が悪化する傾向があります。

子ども達の健やかな育ちに何よりも大切なのは

「安心・安全」の環境です。

手をあげてしまう前にちょっと待って下さい!!

養育者も人間なので、感情的になる時だってあります。

イライラしてきた時、「一呼吸」置き自分なりにストレスの爆発を逃がす

下記の様な方法を見つけておきましょう!!

大きく深呼吸する 音楽をかける 鏡を見る
数を数える ゆっくり動く、話す 別の部屋やトイレに移動する
手を流水で流す、顔を洗う (子どもが安全な状態でいれば) などなど

子どもに「暴力で解決すること」を伝えたいですか？
子どもは私達の希望であり未来です。嫌なこと、伝えたいことを我慢する必要はありません。「しつけ」は子どもの学びの支えです。少し時間はかかりますが、『言葉、表情、身振り手振り』で大人の想いを伝えましょう。

また、子どもの発する想いに耳を傾けて、一緒になってどうしたら良いかを考えてあげて下さい。励ましたり、支援することで、子ども自身が解決する方法を見つけていくことが、本人の自立や自律につながります。子どもの健やかな成長に何よりも大切なのは、いつも安心・安全で居心地がよく、笑顔で過ごせるような環境です。

子育てを楽しむ4つのポイント

子どもの良い所を探そう

「子育ては宝探しの長期戦」という言葉があります。「あら探しの短期戦」となりがちな昨今、出来るだけ子どもの良い所を探して見てあげることが、楽しい子育てや満足度の多い子育てに繋がります。



混乱時はクールダウンを

かんしゃくを起こしたり混乱している最中は、大人でも他者の言葉は耳に届きにくいものです。そこで安全を確保した上で少し時間をおき、お互いにクールダウンする事を心がけましょう。自身も深呼吸し、子どもも落ち着きを取り戻した時に、改めて気持ちを伝え合いましょう。

欲求を満たしてあげられる環境を

子どもの「やってみよう！」を大人が応援してあげる為にも、事前に想いや願いなどを伝え合ったり、ルール作りなどをすることが大切です。また子どもの欲求を満たしつつ、大人も許容できるような「環境(人、物、場所、時間など)」を用意してあげられると、お互いにとっても良い気持ちになれます。

一人で抱え込まないで

子育ての大変さや感動について、周りにいる人たちと語り合うなどして、ストレスを溜めないようにしましょう。そして困った時は、一人で抱え込まず、誰かに相談してみましよう。相談できる人がいない場合、近隣の保育園や右記の公的機関などをご活用下さい。

さいたま市内や
全国の相談機関をご活用下さい。

●さいたま市 子育て応援ダイヤル
【平日 9:00-12:00、13:00-17:00】
☎ 048-829-1943
子どもと一緒に遊びに行ける場所や
子育てに関する各種制度、相談先など、
必要な情報を調べて紹介します。

●さいたま市 児童相談所
【平日 8:30-18:00】
☎ 048-840-6107
児童に関する相談に応じ、問題解決に
必要な指導、援助を行う機関です。

●児童相談所 全国共通ダイヤル
【24時間対応】
☎ 189 (いちはやく)
虐待かもと思ったら189(いちはやく)
番へ。189番にかけるとお近くの児童
相談所につながります。